

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

大江修道院

「神よ、造られたすべてのものによって、あなたを賛美します。」-太陽の賛歌-

「エコロジカルな回心」で先ず思い起こされるのは、アシジの聖フランシスコの「太陽の賛歌」や昆虫記の作者ファーブルの「わたしは神様に触れているのです」という言葉です。生きとし生けるものはみな神さまからの贈り物。その一つひとつをいとおしいまなざしで見つめることの大切さを教えてくれているように思うからです。そしてその根底には神さまへの感謝の心があります。私たちは毎朝、デオ・グラチアスの祈りの心で起きる習慣があります。その恵まれた習慣を心から感謝すると同時に、苦しむ人、貧しい人に心を寄せつつ、私たちに来ることをお捧げして生きるよう努めていきたいと思えます。

エコロジカルな回心の内奥には、生きとし生けるものへのごたいせつと感謝の心があり、それが様々な形であらわれていると思えます。ささやかですが、今、私たちの共同体でこころがけているいくつかの取り組みについて記します。

- ① 食品を包装している小さなパック類の仕分けをこまめにする。プラスチックと紙箱など(きれいに開いて決まったサイズで束ねる)に分けて、どちらも資源ごみ出し日に町内の指定場所まで運びます。
- ② 牛乳パックは開いてまな板として再利用します。表面の傷が目立ってきたら乾かして資源ごみへ。
- ③ 増えすぎた庭の植物、特に鬼百合の勢いがすごく、所かまわず繁茂して花壇の中で我が物顔!それを少しずつ間引くように抜いて、捨てるのはもったいないので調理(炒め物やグラタン、おやきなどにしました)してみんなでいただきました。かつて、百合の根は、茶わん蒸しに一片入っているのに気づいたら「ゆり根だ!」と味わって食べていましたが、こちらでは自然の恵みをこれほど贅沢に、そして豊かにいただいて、まさに「神に感謝」です。(鬼百合の繁茂状態写真参照)



- ④ 買ってきて大事に箱の中に保存していたジャガイモ5個が芽を出し、あまりにも伸びすぎて調理には使えないシワシワ状態になりました。「捨てる?」などと話しているところに折よく、いつも野菜などを届けてくださる信徒の T さんが来院されたので相談したところ、

「土に入れておけば育つよ」と言って具体的な指導をいただいたので、庭の空いた場所に早速植えました。ジャガイモはTさんも驚くほどの速さですくすくと育ち、見事に実りました。これも味わいながら感謝していただいています。

(写真参照)



- ⑤ フードロス削減を意識するようにしています。食事は当番制で作っていますが、量の加減がうまくいかず、つい多めに作って残ることもあります。また、個人によっては出されたものを全部いただくことができないときもあり、残ったものは、食事を各自で自由に作る時(週に2回)を設けて、誰かが食べるようにしています。
- ⑥ 生活の中での儉約、節電・節約は勿論のことですが、新しいものを購入するというより今あるもの、使用できるものをできるだけ大事に使うように心がけています。

私たちに出来るのは小さなことですが、美しい地球環境を整えてくださった神さまに、ありがとう!の心でお返ししていけたらと願っています。ただ、物だけではなく、姉妹をはじめ接する方々と様々な出来事に対してもいつもありがとう!の心で受け止めることができるように、お互いに「すべてをデオ・グラチアスの心で」という目標を掲げて歩んでいます。